



Two heads are better than one.

活動目的

機関リポジトリ運営についての体験や情報を大学・機関間で共有し、機関リポジトリの持続性を確保すること
機関リポジトリ事業の支援を通して「イニシャティブ」的な活動形式のあり方(コミュニティのモデル)を確立する

DRF を通じて見えてきたIR の課題

逸見勝亮(主担当大学 北海道大学附属図書館長)

北海道大学・千葉大学・金沢大学は、NII 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業の支援を得て、デジタルリポジトリ連合(DRF, 平成18年度25大学, 19年度58大学が参加)を組織し、IR 振興のためにIR コミュニティを形成すべく、相互協力活動に取り組んだ。主な活動は以下の通りである。

1. IR・オープンアクセス思潮に関する情報交換のためのメーリングリスト及び Wiki の構築。
2. IR・オープンアクセスに関するワークショップ開催。
3. IR・オープンアクセスに関する国際シンポジウム開催。
4. IR に関する連携モデルの国際的調査。
5. 今後のIR コミュニティの在り方の検討。

これらの活動を通じて、課題もまた鮮明となった。

第一に、図書館職員は大学・研究機関、研究者に対して、学術成果をIRに載せる意義を説明できなければならない。われわれは、IR による発信は学界を越えた活動であり、情報オープンアクセス社会における新しい説明責任の果たし方である、IR の根幹を共有したい。IR は大学・研究機関図書館にとって益々重要な存在となるはずである。

第二に、IR のコンテンツ数を増やし、かつ質を高めることが決定的に重要である。そのためにも、学術成果を登録する研究者数の増加方策を探る必要がある。

第三に、図書館職員なら誰もが、IR の運用を担えるようになるべきである。不可避である人事異動にあらがうには、全国的な研修にIR の運用を加えるのも一考である。できれば、IR 相互の連携も容易となろう。

第四に、学術成果を登録した研究者、登録学術成果にアクセスした人々それぞれにとって、IR が有用であったのかどうかを確かめる必要がある。せめて利用者の属性ぐらいは解析したい。

DRF が発足して日は浅い。日は浅いが、この間のIR の進展を確実なものとしたのは、NII のCSI 事業ならびに大学・研究機関による支援と、DRF に参画した図書館職員の献身である。これらのすべてに敬意と感謝を表す。

(活動報告書「平成18~19年度の活動と今後の展望」平成20年3月 より)

2007-2008 Workshops and Conferences

DRF3 in Library-Fair (Nov. 2007) 145機関 278名参加

DRF-Okayama (Nov. 2007) 21機関 35名参加

DRFIC2008 (Jan. 2008) 96機関 193名参加

DRF-Kanazawa (Feb. 2008) 8機関 35名参加

DRF-Sapporo (Feb. 2008) 24機関 75名参加

View in the future

平成20年度以降は、メーリングリストとウェブサイト運営及び集合イベントの開催に加え、これらを共有のテーマとして、調査・研究・開発に努めたい。

- 機関リポジトリ上の情報資源の発見及びアクセス性の向上
- 機関リポジトリへの登録が学術文献流通に対して及ぼす効果についての解析
- 図書館間文献デリバリーサービスを機関リポジトリとの概念融合
- オープン・アクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント
- DOIの付与による機関リポジトリ搭載資源の流通促進と長期保存
- 機関リポジトリ評価のための基盤構築
- eScience基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充
- リポジトリと電子出版の連携モデルの確立
- 研究者情報システム連携
- 共同リポジトリモデルの構築と普及

Open Discussion List and Wiki -for sharing experiences and expertise-

機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト

機関リポジトリの設立・運営に関する公開メーリングリスト

参加資格

参加方法 (subscribe)

退会方法 (unsubscribe)

メールアドレス

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-04

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-04

Open Discussion List

references

機関リポジトリの設立・運営に関する参考文献

実務事例集

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

References for IR developers

RepositorySoftwares

RepositorySoftwares

ソフトウェア

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

Technical issues For operating IR softwares

Digital Repository Federation

Digital Repository Federation

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

Wiki

startup

機関リポジトリを立ち上げると

必須

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

What to do when launching an IR

List of E-Journals Hosted by IRs

2008-04-15

2008-04-15

2008-04-15

2008-04-15

2008-04-15

DRF1

第1回DRF1ワークショップ機関リポジトリの構築とケーススタディ(平成18年11月17日(金) 千葉大学)

1. 機関リポジトリの構築とケーススタディ

2. DRF1の構築と運用

3. DRF1の運用と将来展望

4. DRF1の運用と将来展望

5. DRF1の運用と将来展望

6. DRF1の運用と将来展望

7. DRF1の運用と将来展望

8. DRF1の運用と将来展望

9. DRF1の運用と将来展望

10. DRF1の運用と将来展望

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

Proceedings of Workshop Series

運用指針一覧

運用指針一覧(公開のみ)

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

ROARMAP in Japan

Keywords

Keywords

2008-05-29

2008-05-21

2008-05-20

2008-05-15

2008-05-02

"DRFpedia" For technical terms On OA and IR